# ズバリ！町政を問う

## 12月議会・一般質問

杉本 和彰議員

### 新しい和水町総合計画の策定について

**問** **一、多様化する社会情勢を的確に判断し、政策、施策の優位性、重点性を明らかにし、効果性のある戦略的な計画にする考えはないか。**

**二、民間の役割、専門性を十分に反映させていく必要性があるが、民間の参画のお考えはないか。**

**答** 一、三位一体改革の更なる推進、地方分権の推進や住民ニーズの多様化、高度化等を自治体にとって現在の状況は大きな転換期である。特に地方財政が厳しい中、町民のニーズや社会情勢を考慮し安全で安心な地域社会のために事業とともに将来を見据え、戦略的視点にたった政策が必要である。

二、利益追求を目的とする民間事業者と地域住民の福祉の向上を目的とする自治体との違いがありますので、参入については、慎重に検討してまいりたい。

### 合併後の行政変化について

**問** **一、広く町民より合併後の行政変化に対する意見を聞くことはなかったかどうか。**

**二、合併についてどのような感触を持っておられるか**

**三、今後の構想についてどのようにお考えか。**

**答** 一、あらゆる行事、会合にはできるだけ参加し、合併したことに理解を得て町政運営に対する理解のお願いをしている。また組織の整理、施設の整理も早急に見直しをする。

二、少子高齢化が進む中その対応、それから財政逼迫する中その対応地方分権の進展に対応その他諸々の対応に対するものだった。

三、お互い理解し合い、全町民一丸となった理想郷建設に全力で尽くす。

### 行政対応について

**問** **一、地上デジタル放送開始に伴う公共施設等の対応はあるのか。**

**二、人口減という現実をどのような形で反映させていくのか。**

**三、ガラス工房施設の今後の展望についてどのようにお考えか。**

**答** 一、非常に届きにくい地域に関しては推移を見ながら検討させて頂きたい。

二、県の企業誘致課とも出来るだけ接しながら情報収集を致します。

三、入居者については建設と平行して募集する。

### 町長の財政運営の姿勢と手法について

**問** **一、行財政改革を19年度予算にどのように反映されるお考えか。**

**二、指定管理者についてどういう手法で検証、チェックをしていこうとお考えになっているのか。（あばかん家運営検討委員会）**

**答** 一、徹底した行財政改革に取り組み、財政の健全化に努めつつ、地方分権を推進、創造性、自立性を高め、積極的な施策の展開が可能となるよう地方税財源の充実確保を図る。

二、経営の内容のチェックに関しては、毎月提出される報告書によるチェック、ロマン館、元気村の委員会に職員も必ず出席致します。社協を福祉の拠点として三加和のあばかん家に移行できないかということです。内部で組織の整備、運営の改善が出来ないかを検討させている。

（株）肥後元気村『あばかん家』全景

北原 芳文議員

### 学校教育の現状について

**問** **新聞、テレビ、メディア等において、毎日のように報道されておりますいじめの問題について伺います。**

**本町の児童生徒のいじめについての実態について、どのように認識し、予防と対策を教育委員会でどう講じていくのか。**

**答** いじめはいつでもどこでも起こりうるという認識のもとに対応しており、11月に実態調査（小学生606名、中学生373名）を実施した中いじめられたことがありますか？の問いに対し121人がいじめられた（小学生）54人（中学生）あると答えた子の中で、いじめで死ぬほど苦しんだことがありますか？あると答えた子どもが小学生14人、中学生10人。そういう子どもに対して、学校で一人一人対応してもらっております。いじめた方は認識がなくてもいじめられた方は、自分はいじめられたんだという受け止め方をしているという、そういうケースもあるので、その解決だけが難しい。今のような状況の中で、いじめられた子どもに対する指導、いじめた子ども、あるいは学級、学校、集団の中で指導を行なっている。

**問** **思いやりのある子どもを育てるための取り組みはどうか伺う。**

**答** 学習ノート、自主学習ノート等を回し子ども達の悩みの把握に学校も努めている。又、欠席をした子どもに対する家庭訪問や電話等を行っている。

**問** **小中学校における不登校について本町の実態は？**

**答** 不登校についての定義は色々あるが、30日、あるいは50日理由なく欠席すること、月に5日間連続した休みにある子どもを一応不登校、又は不登校ぎみと定義し、不登校の子どもが小学生1人、不登校ぎみの子が1人、中学生においては、不登校2人、不登校ぎみの子どもが3人、いずれの学校にも、こころの教室相談員という先生が中学校におりますが、民生員の皆さん、その他で担任の先生と一緒に努力をしてもらっています。

**問** **落ちこぼれの子どもを出さないために学校での取り組みがあれば伺いたい。**

**答** 学力向上こそが学校機能の最大限の一番大きいものだと思っている。11月15日三加和地区の小中学校で学力向上の研究発表会を菊水地区では幼保小中連携事業を開催し国語を中心とした学力向上に努めることが落ちこぼれをなくすことの一つと思っている。

**問** **ボランティア活動を通じて社会貢献を学ぶことも大切なことと思うが如何か伺う。**

**答** 年間の計画をたてて、三加和の方で力を入れて取り組んでおります。特別養護老人介護施設の大掃除ボランティア、保育園、小学校も含めたボランティア、菊水地区では小中合同ボランティア、一人暮しの老人介護等など、教育に大きく役立っている。次年度からは、生徒会のリーダー研修を合同で行ない、交流を交えたり、小学校の修学旅行も一緒に行なう計画をもっている。

子ども達の授業風景

田上 原一議員

### 平成19年度予算組素案作りをふまえて

**問** **国、県の補助金カット、地方交付税も軽減される中、しかも個人税収が伸びなやむ中、19年度予算も厳しいものになると思われるが、現状をふまえ、どの様な取り入れをされるのか伺います。又、町長独自の特徴ある予算を期待しますが具体案を伺います。**

**答** （町長）地方分権法案設立後地方を取りまく環境、地方に配分される交付税もまさに厳しいものになっているところです。地方債もすでに200兆円をこえ、国も大変な状況であります。17年度の決算が今議会において審議される事になっており、決算の状況をふまえて、今後の予算組、編成に当りたいと思っております。

決算を終えて、次に生かす事業、見直しが必要な事業等があればしっかりとみわけ19年度予算に取り組んでまいりたいと思う。

又、町長独自の特徴ある予算については、まず19年度の財政を見すえた中で考えなければならないと思っています。

特に介護保険問題について介護認定者にならない様な体力向上、体操等を取り入れた